

川上と川下を“つなぐ”

～林業の新たな可能性を探る～

開催日時

令和7年3月10日(月)

○ 講演会:14:00～17:10(13:30開場)

○ 懇親会:17:30～19:00

開催場所京都府立大学 下鴨キャンパス 稲盛記念会館1階103号室
(講演会後に同館食堂『deli café たまご』にて懇親会)**参加対象**林業関係者及び林業・SDGsに関心がある方
(講演聴講:無料、懇親会:5,000円)**参加方法**右の二次元コードからお申し込みください。
(期限:3月5日(水)12:00、先着100名)**講演講師**

『「育てること」で森林と人を繋ぐ取組み』

(株)ソマノベース(和歌山県田辺市) 代表取締役社長 奥川 季花 氏



『森林資源と地域経済の循環を生み出す取組み』

(株)中川(和歌山県田辺市) 創業者兼従業員 中川 雅也 氏

未来を創る 共に生きる



『バイオ炭と農林業から考える人類未来』

シン・エナジー(株)(神戸市) 代表取締役社長 乾 正博 氏



『中高層木造建築の現在地とこれからと

森林グランドサイクルへの取組み』

(株)竹中工務店(大阪市) 参与 木造・木質建築統括 松崎 裕之 氏

全体講評

教授 宮藤 久士 氏

(京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻)



【主催】日本政策金融公庫、公庫林業友の会

【共催】京都府立大学環境科学部森林科学科

【後援】近畿中国森林管理局、近畿財務局

滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

滋賀銀行、京都銀行、関西みらい銀行、みなと銀行、南都銀行、紀陽銀行

滋賀中央信用金庫、京都北都信用金庫、兵庫県信用組合、大和信用金庫

登壇企業の概要

ソマノベース

土砂災害による人的被害をゼロにする

戻り苗の森プロジェクト

(株)ソマノベース(和歌山県田辺市)
代表取締役社長 奥川 季花 氏

(株)ソマノベースは、奥川社長が2011年の紀伊半島大水害による土砂災害の被災に遭ったことがきっかけで立ち上げ
○ビジョン「土砂災害の人的被害をゼロにする」
○ミッション「林業を通じて災害リスクの低い山を増やす」
災害に強い山づくりの確立と持続的な林業への転換を実現する取組み展開。林業界と他業界、それぞれを繋ぐ通訳者として事業を行い、社会を巻き込みながら“防災”“森林保全”を進めています。



(株)中川
(和歌山県田辺市)
創業者兼従業員
中川 雅也 氏

中川雅也氏は、「林業」という産業にはまだまだ可能性があると感じ、「新しい林業」の在り方を世の中に広めるため、森林組合の職員として働いた後、起業を決意し、創業者として(株)中川を設立
山を守るため、林業を産業として復活させるビジネスチャンスはたくさんある！
植栽放棄地をゼロにし、林業がもっと面白く、活気ある産業になるよう様々な事業を行っています。今までのイメージにとらわれない、新しくおもしろい次世代の林業を創造します。若者の採用、高賃金、勤務時間の自由化、林業界以外の産業とのコラボレーションなど新たな働き方や事業を展開します。

未来を創る 共に生きる **SymEnergy** シン・エナジー

シン・エナジー(株)(兵庫県神戸市)
代表取締役社長 乾 正博 氏



- 再生可能エネルギー開発
- 新電力運営&支援
- ローカルデザイン

シン・エナジー(株)は、経営理念「未来の子どもたちからの“ありがとう”のため、生きとし生けるものと自然が共生できる社会を創造します」を掲げています。
エネルギーを基軸に資源と経済が循環する社会を目指し、「食」「社会システム」の新たな価値を創出することでこれからの日本のあるべき姿をデザインしてまいります。

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

(株)竹中工務店(大阪府大阪市)
参与 木造・木質建築統括 松崎 裕之 氏

竹中グループCSRビジョンである「まちづくりを通じたサステナブル社会の実現への貢献」のもと、循環型資源である木材利用が重要であること、宮大工として400年以上事業を継続し木造建築に想いがあることから、他社に先駆け2016年に木造木質建築推進本部を立ち上げました。
「木のイノベーションで森とまちの未来をつくる」をミッションとし、中高層木造建築を推進し、木材利用の拡大を目指しています。また、森林資源と地域経済の持続可能な好循環を「森林ランドサイクル®」と名付け、社会課題の解決に向けた取組みも進めています。



全体講評

教授 宮藤 久士 氏
京都府立大学大学院
生命環境科学研究科
環境科学専攻

1971年山口県生まれ
1994年京都大学農学部林産工学科卒業、2000年京都大学博士(エネルギー科学)取得。地球規模でのエネルギー・環境問題が取りざたされる中、カーボンニュートラルで持続可能な資源として木質バイオマスに着目。化石資源代替として木質バイオマス資源の利用促進は、極めて重要な課題であり、木質バイオマス資源からバイオ燃料や有用ケミカルスを生産しうる化学変換技術について研究、低炭素社会や資源循環型社会の構築に貢献
2017年5月 日本木材加工技術協会第16回市川賞受賞、2019年3月第59回日本木材学会賞受賞ほか受賞歴多数